

ご多分に漏れず台形の敷地目一杯に建てられ複雑な外観をしています。築年は不明ですが、昭和5年の佐原鳥瞰図には、角から加藤正礼堂・関商店・蜷川家具店と続いており、三軒長屋だったようです。ここを基点に戻っていきます。

はす向かいに中村屋乾物店・植田屋荒物店と続きます。特に中村屋の屋号は多古町中村にちなんでいるそうです。明治25年の佐原大火の後に建築されたそうで、防火性を重要視し、壁の厚さが1尺5寸(45cm)もあるそうです。



▲中村屋乾物店



▲植田屋荒物店

その前にある油茂(あぶも)種苗店では、ゴマ油と辣油が有名でTVにも何度か紹介されています。



▲油茂種苗店



▲旧正文堂書店

次に忠敬橋より新宿側に行ってみましょう。早速見えてきた建物が旧正文堂書店です。さら小堀屋(そば屋)福新呉服店と続いていきます。旧正文堂は、明治13年(1880)に建築されました。

黒塗土蔵造の店蔵の形式を取っています。この建築の見どころは、昇り龍下り龍を配した看板及び周辺の細工です。しかし残念な事に先の東北大震災で落ちてしまい、修復はしたのですが、元の看板とは若干違って見えます(個人的感想)。

小堀屋本店は、もともと醤油醸造を家業にしていたのですが、天明二年(1782)にそば屋を創業したとされています。この建物は、明治23年(1890)に建築されました。外観は戸口や格子戸が当時のまま残されています。また、内部も蔀戸(しとみど)や畳の小上がりがよく残っています。工費は、明治23年当時で571円という記録が残っているそうです。福新呉服店は創業文化元年(1804)と言われる町屋で現在の建物は、明治25年の大火後の建築だそうです。敷地の外周を防火壁で囲み、大火の後の防火についての考え方をよく示す貴重な建物です。その隣の洋館は、旧千葉合同銀行さらに第百生命に受け継がれ、現在は小堀屋別館になっているそうです。大正末期の鉄筋コンクリート2階建となっており、石積の外観が力強く古典的な魅力のある雰囲気を感じられます。さらに下分通りと本橋元通りの新旧写真も載せて起きました。見比べてみてください。

## 最後に

余談として令和2年の暮れにNHKで再放送された「たけしくんハイ」の撮影の舞台は、1985年の佐原周辺です。今から35年前の佐原小学校木造校舎や整備されてない佐原の町並みが観られます。NHKオンデマンドやYouTube等で観てください。

これで3回にわたって紹介してきた佐原の町屋の紹介を終わります。今はコロナ禍の外出自粛でなかなか佐原に来られないと思いますが、何れ又一段落したら、遊びに来てください。最後まで読んでいただき、ありがとうございました。